デジタル入稿ABC

2023.6 Ver.5.2

日本経済新聞社　メディアビジネス
広告コミュニケーションユニット

改訂履歴

Ver.	ページ	改訂内容	適用時期
5.1	P.11	紙色見本発送回数、および必要枚数の変更、等	2021年10月～
5.11	P.3	新聞広告デジタル制作ガイド　N_PDFバージョン変更　ver_1.3（2022）に	2022年2月～
5.11	P.11	夕刊の全国/東京単の必要色ゲラ枚数1枚減	2022年4月～
5.2	P.10	原稿データ入稿前に、前閲が必須となります。	2023年8月～
5.2	P.11	工場向け必要色見本一部枚数減	2023年7月～

入稿原稿データ形式

日本経済新聞各紙に掲載する広告原稿は、以下のPDF形式で入稿してください。

N-PDF　（PDF/X-1a:2001）

日本経済新聞の広告原稿制作手順は、日本広告業協会発行の「新聞広告デジタル制作ガイド　N_PDF_ver_1.3（2022）」へ準拠しています。N-PDF は日本広告業協会が日本新聞協会の協力のもと各地に所在する新聞社73 社でのチェックやアンケートを踏まえ「新聞広告のPDF 制作基準」として策定したものです。PDF/X-1a:2001では透明効果はサポートされませんので、透明情報を含むオブジェクトの分割統合処理が必要です。

PDF/X-4:2010（PDFバージョン1.6ベース）

日本経済新聞社では、APPE(Adobe® PDF Print Engine)を搭載したRIP(Raster Image Processor)装置を導入しており、透明効果をネイティブに処理できます。そのため透明情報を保持したまま扱えるPDF/X-4形式による入稿も可能です。透明効果以外の原稿制作ルールはN-PDFおよびその他の注意点をご参照ください。

原稿制作上の注意点

その他、PDF/X-1、X-4形式での制作に際しての注意点

〇カラーモードは、グレースケール／CMYK　をご利用ください。RGB、特色、Labカラーは使えません。

〇フォントデータは、全てアウトライン化してください。

〇配置する画像はPSD（Adobe Photoshopネイティブ）、EPS、TIFF形式をご利用ください。
またICCプロファイルは埋め込まないでください。

〇PDF/X形式への書き出しは、Adobe Illustratorなど制作ソフトをご利用ください。
Acrobat Distillerなどによる変換はしないでください。

〇画像の保存時の設定、およびPDF/X形式での書き出し時の画像圧縮は「圧縮なし」「LZW」「ZIP」を指定してください。JPEG圧縮は不可です。

〇原稿内容については、入稿前に紙面編成部・査閲グループの審査を受けてください。

〇完全原稿での入稿をお願いします。入稿前にプリフライトチェック等を行い、正しいデータ形式であることを確認してから入稿してください。

N-PDF で制作したPDF/X-1a およびPDF/X-4 の原稿データは、日経・インテッククラウドサービス（NICS）のデータチェックサービス（有料）で事前に確認できます。
（12ページのご案内先へお問い合わせ下さい）

新聞印刷の特性①

カラー原稿のTAC（総インキ量）値

N-PDFの仕様では**最大TAC値は240%**ですが、黒系や濃い色合いでTAC値が高いと、対向面へのセットオフや裏抜けが目立ちやすいです。リッチブラックの場合、新聞印刷の再現ではTAC値240%でも180～200%でも差異が目立たちません。なるべく200%を超えない様に設定いただけます様お願いします。

墨の面積が大きいモノクロ原稿は、アミ90～95%で

背景等の墨面積が大きい広告原稿では墨ベタではなく、墨アミ90～95%で設定してください。印刷時にドットゲイン（新聞用紙にインキが着肉する際に網点が大きくなる）によって、ベタとほとんど変わりません。逆に大きな面積で墨100%を新聞用紙に着肉させるとインキの逃げ場所がなく汚れやムラの原因となります。

網点の階調表現

網点を再現できる濃度上限は85%程度です。また5%以下では網点が再現されない場合があります。濃度が濃い部分で階調差を表現したい場合は5%以上の濃度差を設定してください。

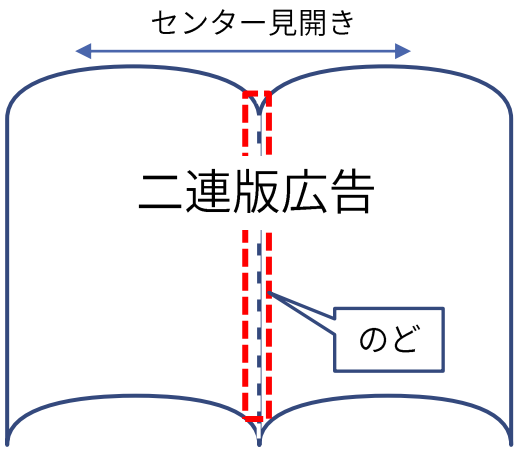
新聞印刷の特性②

二連版広告について

二連版広告は新聞のセンターの見開き左右2ページ分と、見開きの間にある余白部分(のど)を切れ目なく使った広告です。注目度の高いスペースですが、原稿制作時にご注意いただきたい点があります。

輪転機の構造上、印刷した新聞を束ねていく際に「のど」と「小口（のどと逆はじ）」部分に圧力がかかります。特にのど部分を使う二連版広告では、ここに圧力がかかると未乾燥のインキが対向面に転写（セットオフ）され、対向面に逆像の汚れが付く場合があります。最大限注意して印刷していますが、重要なオブジェクトなどの配置を避けることをお勧めします。

のど部分以外でもTAC値制限を超える、またTAC値制限内でも色の濃いオブジェクトを配置すると自広告内でのセットオフが起こる可能性があります。



新聞印刷の特性③

色アミ上の白抜き文字、オブジェクト配置について

背景がCMYK成分を複数含む色アミ（リッチブラック等）である場合、高速輪転機による印刷のため振動や印刷用紙の伸縮などにより、CMYKの印刷がずれてしまうことがあります。大きなズレは輪転機のセンサーおよびオペレータのチェックにより取り除きますが、小さなズレは発生することがあります。白抜き文字を載せる場合、このずれにより視認性が下がることがあるので、明朝体などの様な細い線が入るものではなく、ゴシック等のように幅が均一なフォントを利用し、そのなかでも線幅が太めのものを選び、文字サイズも大きめとすることを推奨します。

また色アミ背景の上にオブジェクトを配置する場合、トラッピング（毛抜き合わせ）設定ができていないと少々のズレで色アミとオブジェクトの間に紙地が目立ってしまうことがあるのでご注意ください。

色アミの上に墨ベタ文字など下地色の影響を受けづらいオブジェクトを配置する場合、オーバープリントを設定すると紙地が出ないのできれいに印刷できます。ただし、オーバープリント設定のまま白抜き文字に変更する（文字色を白にする）と、設定によっては制作ソフトの画面上では白抜きに見えるのに、入稿後RIP処理すると白抜き部分に下地色が見える（白抜き文字が見えない）状態になるので、注意が必要です。

原稿サイズ<日経独自サイズ>

天　地	
申込サイズ	原稿サイズ
1段	32.0mm
2段	66.5mm
3段	100.5mm
4段	135.0mm
5段	169.5mm
6段	203.5mm
7段	238.0mm
8段	272.5mm
9段	306.5mm
10段	341.0mm
11段	375.5mm
12段	409.5mm
13段	444.0mm
14段	478.5mm
15段	512.5mm

左　右	
申込サイズ	原稿サイズ
14割	26.5mm
13割	28.5mm
12割	31.0mm
11割	33.5mm
10割	37.0mm
9割	41.5mm
8割	46.5mm
7割	53.5mm
6割	62.0mm
5割	75.0mm
4割	94.0mm
3割	126.0mm
2割	189.5mm
全幅	380.0mm
二連版	786.5mm

定型サイズ	左　右	天　地
題字下（本紙朝夕刊）	32.0mm	66.5mm
週末題字横（本紙朝夕刊）	62.0mm	25.0mm
産業新聞／ＭＪ題字下	70.0mm	32.0mm
記事中	70.0mm	32.0mm
突出	52.5mm	66.5mm
単独記事中	35.0mm	32.0mm
記事挟み	10.0mm	32.0mm
証券面アイランド	94.0mm	69.0mm
夕刊スカイスクレイパー	35.0mm	203.5mm
書籍３段６分の１※	63.0mm	100.5mm
書籍３段８分の１※	47.0mm	100.5mm

※原稿制作に際し、弊社指定の”囲み罫”データを必ずご利用下さい。
詳細は出版広告営業担当または紙面編成部までお問い合わせ下さい。

日経ヴェリタス	左　右	天　地
フルページ	246.0mm	364.0mm
スプレッド（二連版）	509.0mm	364.0mm

表記以外の特殊スペース等は紙面編成部の担当にご確認ください。

＜日本新聞協会推奨制作サイズ：N-SIZE＞

天　地	
申込サイズ	N-SIZE
1段	32.0mm
2段	66.0mm
3段	100.0mm
4段	134.0mm
5段	168.0mm
6段	203.0mm
7段	237.0mm
8段	271.0mm
9段	305.0mm
10段	339.0mm
11段	374.0mm
12段	408.0mm
13段	442.0mm
14段	477.0mm
15段	511.0mm

左　右	
申込サイズ	N-SIZE
4割	94.0mm
3割	126.0mm
2割	188.0mm
全幅	378.0mm
二連版	784.0mm

出版広告用	左　右	天　地
3段6分の1	62.0mm	100.0mm
3段8分の1	46.0mm	100.0mm

※１面出版広告を上記N-SIZE で制作の際は
弊社指定の”囲み罫”データを必ずご利用下さい。
囲み罫データの詳細は弊社出版広告営業担当
または紙面編成部までお問い合わせ下さい。

日本経済新聞では、N-SIZE ご利用の広告原稿については、
＜縦横比を保たず＞＜拡大・縮小を行い＞広告掲載します。

日本新聞協会ホームページより
「N-SIZE」は、日本新聞協会広告委員会が推奨する広告原稿の制作サイズです。
このサイズで制作・入稿された原稿は、新聞各社の仕様に合わせて掲載されます。
新聞社によっては、原稿のサイズを拡大、縮小して掲載することがあります。

原稿データ入稿締切※入稿前の前閲が必須となります

前閲が完了しないと入稿できなくなります。※2023年8月14日申込分より
前閲は入稿日の2営業日前までに、審査支援サービスより依頼してください。

日本経済新聞 朝夕刊	カラー／モノクロ	掲載日２営業日前、正午まで（法定公告・臨時もの広告を除く）
	二連版（カラー／モノクロ）	掲載日３営業日前、正午まで
日経プラスワン	カラー／二連版	掲載週火曜日まで
	モノクロ	掲載週水曜日正午まで
日経産業新聞	カラー／モノクロ	掲載日２営業日前、正午まで
	二連版（カラー／モノクロ）	掲載日３営業日前、正午まで
日経ＭＪ	カラー／モノクロ／二連版	掲載日３営業日前、正午まで
日経ヴェリタス	カラー	掲載週火曜日まで
	モノクロ	掲載週水曜日正午まで

日曜日付朝刊紙面内「NIKKEI The STYLE」　掲載週水曜日まで※

※ NIKKEI The STYLE は紙面制作の都合上、入稿締切が日曜日の他面より１日早くなっています。ご注意下さい。

＜一部モノクロ掲載エリアがあるカラー申込の場合、モノクロ原稿もカラー原稿と同時に入稿してください。＞

カラー広告色見本（工場ディスプレイ表示／紙色見本）

日経ではカラー広告の印刷時に、工場側で新聞カラー広告色見本基準NSAC（Nihon Shimbun Ad Color：日本新聞アドカラー）2017に準拠したディスプレイ表示画像を目標として調整しています。紙の色見本なしで入稿された広告原稿が対象です。

紙色見本を持ち込まれる場合

紙の色見本を目標に調整を希望される場合は、各印刷工場ごとの送付状を貼付した封筒（角２サイズのみ）に紙色見本を封入し、紙面編成部が指定するボックスに投函してください。

※送付状および発送方法の詳細は、日経ウェブ便のトップページ（広告会社様ログイン後）より、ダウンロードできます。

投函された紙色見本は、毎土曜日に週１回　弊社よりまとめて発送します。
投函締め切りは発送当日正午です。締め切り後の投函分は翌週末発送となります。

※全工場への到着は通常、中1日程度がかかります。また季節・天候等により遅れる場合があります。印刷日をよく確かめて、印刷日前日までに届くようにご注意ください。
※発送日が休日となった場合、発送日の繰り上げ、もしくは発送中止となります（GW、年末年始等をのぞく）。
※発送回数や曜日が変更することがあります。最新の情報は紙面編成部までご確認ください。

必要色見本枚数

朝刊全国	朝刊 ２４カラー	朝刊 文化面Ｃ	朝刊 東京単	夕刊 全国	夕刊 東京単	日経産業	日経MJ	日経 ヴェリタス	日経 プラスワン	朝刊別刷
３７	２９	３１	２０	２６	１５	２０	１８	８	３５	３２

＜朝夕刊の配布／カラーエリアについては、https://marketing.nikkei.co.jp/media/newspaper/mediadata/よりメディアデータPDFをご覧ください＞

電子版 紙面ビューアー表示

紙面ビューアーの広告表示について

以下の各媒体（面）に掲載される新聞広告は、記事紙面とともに紙面ビューアーでも表示されます。

- 日本経済新聞　　朝夕刊の東京最終版、朝刊各地域経済面、日経プラスワンを含む別刷
- 日経産業新聞　　本体、および別刷
- 日経ＭＪ　　本体、および別刷
- 日経ヴェリタス　本体、および別刷

※別刷については、一部、紙面ビューアーに表示しないものがあります。

紙面ビューアーは新聞広告用の画像を表示します。表示に関してのお問い合わせは事前に紙面編成部まで。

関連システム

□日経ウェブ便（WEB-EDI広告申込送稿サービス）

日本経済新聞社への新聞広告申し込み及び広告原稿の入稿は、すべて「日経ウェブ便」を利用していただきます。

日経ウェブ便のご利用には事前の申請によるユーザー登録が必要です。

日経ウェブ便で原稿入稿をすると、RIP 処理後の掲載イメージ※を確認することができます。

※新聞印刷版用に二値化（網点化）した画像を多値画像に再変換したPDFをダウンロードすることができます。

詳細は紙面編成部・日経ウェブ便担当までお問い合わせください。E-mail：nikkei-webbin@nex.nikkei.co.jp

□日経・インテッククラウドサービス（NICS）

広告制作業務を円滑にサポートするサービスを提供しています。

NICS印刷見本サービス：印刷工場で表示される印刷見本を高機能ディスプレイでシミュレーションできます。

NICSデータチェックサービス：新聞広告の原稿データを簡単にプリフライトチェックできます。

NICSのサービスに関するお問い合わせ• 資料のご請求は

日経・インテッククラウドサービス有限責任事業組合
〒100-8066　東京都千代田区大手町1-3-7　日本経済新聞社東京本社ビル13Ｆ
HP：https://www.nicsproof.jp　　e:mail： nicsinfo@nicsproof.jp

日本経済新聞社　メディアビジネス
事業運営センター　紙面編成部
〒100-8066 東京都千代田区大手町１－３－７
０３－６２５６－７４７１

Adobe、Adobeロゴ、Acrobat、Adobe PDF Print Engine、Photoshop、Illustrator、およびAcrobat Distillerは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。